

人の支えを感じられないプアな人間性ではダメだ

最近、子供たちが犠牲になる凄惨な事件に加え、子供たち自身が凶悪犯罪の犯人だったというニュースも珍しくなくなりつつある。

なぜそんな事件が次々に引き起こされるのだろうか。

おそらく、自分がたくさんの人たちに支えられて生きていることや、他人の気持ちを思いやることができないほど、感性が鈍化してしまっているからではないだろうか。知性はたしかに大事だが、どんなに知性を身につけたところで感性がなければ無力に等しい。

人間は自分のことしか考えられなくなると、ちっぽけな存在になってしまう。ましてや、人の支えを感じられないようなプアな人間性では仕方がない。親は子供に、成長する過程でどれだけ多くの人に支えられてきたかということを、しっかりと教えてやらなければならない。それを家庭教育では、おろそかにしているのではないだろうか。

最近の世の中を見ていると、自分のことだけしか考えられない人間がやたらと目につく。そういう状況の中で、はたして子供たちはどこで心を耕せばいいのか。それを考えると暗たんたる思いに包まれる。

実はスポーツには子供の心を耕せる要素がたっぷりと含まれている。たとえば人間はそのひ弱さから、つらいこと、苦しいことから自分を守ろうとする自己防衛本能が働く。しかし、そこから逃げずに、そのつらさや苦しみを自分で引き受けなければ強くなれない。スポーツはそれをまず、ハッキリとわからせてくれる。

また、スポーツを通して鍛えあげられた筋肉や、長時間闘うための持久力、すばらしい技術は、どれも練習をせずに身につけられるものではない。誰かに代わって練習をしてもらったところで、自分の筋肉にはならない。いくら大金を積んだところで、すばらしい技術を手に入れられない。自分が努力したぶんだけしか、その結果を得られないのだ。それを身をもって体験することで、人生を生き抜くために必要な力がついてくる。

自らの意志で体を動かして汗を流し、仲間とともに涙をこぼして感動しあい、そして感謝の気持ちを育む。そういう体験をすることで、他人を思いやることのできる優しい心が形成されていく。